

シリーズ ひと

おおたけ まさかず

大竹 政和 さん

新白岡在住。(社)日本地震学会会長、地震予知連絡会会長、原子力安全委員会専門委員ほか要職を多数兼任。東北大学名誉教授。



地震予知は困難だけど 不可能ではないと 思うんです

地震を研究するきっかけはこれと言っていないとのことだが、大学に入って地震学の権威である教授と話したときのひと言が決め手になったという。地震学なんておもしろいことはもう何も残っていないよ。「それを聞いてやめようと思ったところ」でもわたしくらい偉くなると思うでもないよ。「その言葉に反発するように地震学の世界に入っていった。

さらに、東京大学地震研究所助手のころ、1965年から長野県松代町で始まった松代群発地震の際、なんでも援助する」と言った国に対して当時の中村町長が「物・金より学問・研究が欲しい」と言った言葉に感動し、本気で地震学を勉強し、みんなに安心を与えたいと思ったという。

地震予知という話題になると、「地震予知計画というのが1965年にスタートしましたが長い間成果は上がらなかったんです。30年経ってから起きた兵庫県南部地震も予知できませんでした。あれから10年経ちましたが、今は地震の基礎的な研究が中心で、その結果として予知出来るようになる」といいと思うんです。回り道と見えるかもしれませんが、本来こうあるべきなんです。」と話してくれた。

にとどめたという事実があります。地震予知は困難ではあるが不可能ではないと思います。」と力強く語ってくれた。実際、大竹さんは1978年にメキシコで起きた地震を事前に予測し学会で発表していたという実績がある。

白岡町の安全性について尋ねると「安全ということはありません。関東平野全体が、いわば軟弱地盤なんです。」ときっぱり。さらに「兵庫県南部地震級の地震は毎年数回世界のどこかで起こっているんです。ただ、砂漠の真ん中で大地震が起きても震災にはなりません。そこに住んでいるから震災になるんです。地震は自然現象で防ぎようがありませんが震災は別です。」

最後に今後について尋ねると「定年後は楽器(チェロ)と囲碁をやってみたいと思っていましたのですが退職したらかえって忙しくなってしまうんですよ。あと数年したら思う存分やりたいですね。」と笑顔で語ってくれた。

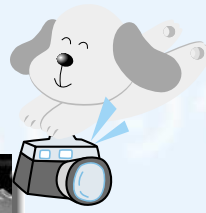
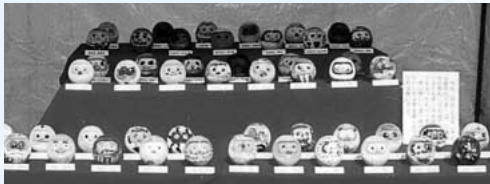
シャッターチャンス!



寒さも
忘れる
集中力

2/5 篠津小・中学校体育館

第23回白子連さいたま郷土かるた大会が行われました。大会では団体戦、個人戦が行われ、厳しい寒さの中、みんな元気にがんばっていました。



だるまさんも日なたぼっこ

2/15 白岡八幡宮境内

今年のだるま市は天候に恵まれ、暖かい日さしの中、だるまを買い求めに来る人たちににぎわいました。また、色とりどりの子ども創作だるまも人気を集めていました。

楽しく
笑って
健康に!

2/2
はびすしらおが



「笑い与健康～笑いは活力の源～」と題して、三遊亭電楽師匠を講師に迎えて健康講座が開催されました。当日は110名のかたの参加があり、おおいに笑って活力アップの時間を過ごしました。

「愛の図書」寄贈 H17.12/12 町長室



久喜地区更生保護女性会白岡部会（市川恵子部会長）より、活動の一環として読書を通して培われる健全育成を目的とした「愛の図書」40冊（5万円分）が町内小中学校に寄贈されました。

現在、贈呈された「愛の図書」を読んだ町内小中学校児童生徒による「愛の図書はがき感想文展」が白岡庁舎一階ロビーにて開催されています。（今月10日まで）

わが家のアイドル



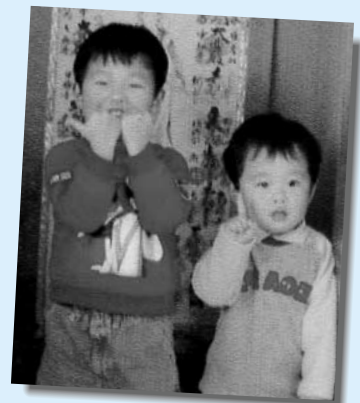
「なかよし♡」

かとう ゆうさ
加藤 祐沙 ちゃん (3歳)
ようせい
容成 くん (1歳)



「早くお散歩行こうよ～！」

えんどう さき
遠藤 咲季 ちゃん (7か月)



「兄弟仲良くハイポーズ」

おおさわ しゅんや
大澤 駿弥 くん (4歳)
はるま
陽真 くん (2歳)

お子さんの写真を募集しています 氏名（保護者とお子さん）・生年月日・住所・電話番号・写真にコメントを添えて、直接または、封書で郵送してください。年齢については、3月1日現在で掲載しています。
投稿先 〒349-0292 白岡町大字千駄野432
白岡町広聴広報課広聴広報係 ☎(92)1111 内線353